

2022 年度日本フォーカシング協会年次総会 議事録

2022 年 9 月 17 日（土） 16：30～18：30

沖縄県男女共同参画センター&ウェブ（Zoom）併用

出席者：会場 43 名、Zoom 16 名

会長あいさつと協会の現状について

森川会長より、今回は初めて Zoom と対面のハイブリッド形式で開催できたこと、集い開催への感謝の意が述べられた。また今回は多くの審議事項があるため、参加者には意見を積極的に出してもらいたいこと、後半のグループミーティングにも気軽に参加してもらいたいことが述べられた。

< A. 審議事項 >

A-1. 2021 年度収支決算報告及び監査報告

昨年度事務局を務めていた青木副会長より資料をもとに 2021 年度収支決算の報告が行われた。

- ・寄付 32 万のうち、30 万は集いの準備金の返金であり、収入は 1,098,516 円となる。
- ・支出は概ね予算と変わらないが、事務局運営費についてはコロナ禍で運営委員会がオンラインになり、交通費がかからなくなったことから、支出が抑えられた。
- ・協会の資産として現状では多すぎるため、マイナス予算を立てていたが、結果として今年度は 45 万円強プラスとなった。任期 3 年間で 100 万円程度減らす予算立てだったものが、コロナ禍に見舞われ、結果として 100 万円程度増加してしまった。その分は今後有効に活用してもらいたい。

次に、監事の三木 健朗氏、得丸 智子氏より、2021 年度の決算報告について、全ての資料を閲覧し、青木副会長より詳細な説明を受けた結果、この収支決算は正しく処理されており、適正と認められたことが報告された。

以上の報告についてフロアーに質疑を求めたが、質問等は特になされず、承認された。

2021年度予算			2021年度決算		
収入の部	金額	備考	収入の部	金額	備考
前期末より繰越	6,724,543		前期末より繰越	6,724,543	
年会費	1,665,000	3,000円×555人	年会費	1,564,500	3,000円×517人 5250円×1人 3,750円×1人 2,250円×1人 1,500円×1人 750円×1人
寄付	0		寄付	320,000	
前受	3,000	3,000円×1人分	前受	9,000	2022年度会費4名
受取利息	50		受取利息	56	
ニュースレター バックナンバー頒布	1,500		ニュースレターバックナンバー頒布	0	
その他	500		その他	14,960	
小計	1,670,050		小計	1,908,516	
収入計（前期末より繰越を含む）	8,394,593		収入計（前期末より繰越を含む）	8,633,059	
支出の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
ニュースレター発行	760,000	福岡コロニーへ支払い	ニュースレター発行	679,663	福岡コロニーへ支払い
事務局運営	550,000		事務局運営	127,396	
事務委託	251,240	福岡コロニーへ支払、半期125,620円固定	事務委託	251,240	福岡コロニーへ支払、半期125,620円固定
Webサイト運営	15,000		Webサイト運営	10,270	
普及・活動助成	200,000		普及・活動助成	0	
次年度大会準備	300,000		次年度大会準備	0	
手数料	70,000		手数料	74,566	
年会費返金	0		年会費返金	8,750	3000円×2件
総会会場費	10,000		総会会場費	19,140	
小計	2,156,240		小計	1,471,025	
予備費	6,238,353		翌年度への繰り越し	7,181,174	
支出計（予備費を含む）	8,394,593		支出計（翌年度への繰り越しを含む）	8,652,199	
期首残高	6,724,543		期首残高	6,724,543	
期末残高見込み	6,238,353		期末残高	7,181,174	
増減見込み	-486,190		増減	456,631	

メンバー数について

福田事務局長より、メンバー数の動向について、この3年間メンバー数はほぼ500人前後を推移しており、更新率は9割以上を維持していること、一方、未入金者（退会者）もいるため、今後も丁寧な入会案内と継続案内をしていきたいことが報告された。

時期	継続 (1)	新入会 (2)	メンバー数 (1)+(2)	前年度 メンバー数 (3)	未入金 者数 (3)-(1)	更新率 (%) (1)/(3)
2019年度末	473	56	529	556	83	85.1
2020年度末	482	29	511	529	47	91.1
2021年度末	470	51	521	511	41	91.9

A-2. 緊急性の高い課題とその早急な解決法について

福田事務局長より、当協会の継続的な運営のために必要な以下の審議事項（審議1、2が課題、審議3がその対応策）について説明がなされた。

審議1 【法人化への移行について】

福田事務局長より、以前から話題にあがっていた法人化について専門家に意見を求めたところ、現在、当協会は登記はされていないものの、国税庁からみたら現状の組織は「人格無き社団」に該当するとのことであった。

続いて、「人格無き社団」の問題点が説明された。

- ・法人ではないため、金融機関では口座が個人扱いとなり、税務的には名義人の個人資産となる。そのため、会長が交代する度口座名義を変更し、名義人が死亡した場合は、相続手続きの関係でしばらく資金の移動が出来ない。
- ・金融機関で当協会名義のクレジットカードが作成できず、適宜担当者が個人名義のクレジットカードを使用している現状にあり、個人への負担が生じている。
- ・当協会としての契約が必要な場合、相手方にとっては「団体との取引であるのか、代表者個人との取引であるのか」登記がないため税務上「不明分」となるおそれがある。
- ・当協会は、非営利の「人格無き社団」であるが、税法的には法人住民税均等割りの納税義務がある団体の活動状況と考えられる（納税額：福岡コロニーのある福岡県神宮町の税制に照らすと、福岡県法人県民税（均等割）21,000円＋新宮町法人県民税（均等割）60,000円）。しかし、非営利団体のため免除申請を出せば、全額および半額、免除申請はできるのではないかな。

審議2 【フォーカシング協会webサイトの見直し及びメンバー管理業務外部委託について】

福田事務局長より、現在メンバーの入退会等の管理業務を事務局とweb管理グループで行なっていること、webシステムは、次の二つに別れていることが説明された。

1. メンバーがよく見るwebサイト、情報発信…主にワードプレスを使用。
2. 入会処理や年会費の徴収後の処理（メンバー管理）…PayPalとの連携が行えるよう、オリジナルで構築されたデータベースが基。

続いて、webシステムの現状課題が説明された。

- ・PayPalで年会費を支払ったものの協会のwebシステムに入金が反映されず、退会扱いであったケースが発生。現状では原因が把握できない。
- ・メンバー管理を行っているオリジナルソフトは大変素晴らしい内容だが、エラーが生じた場合等には作成者やプログラミングの能力が必要であり、現状では対応は困難である。
→（解決策として）webサイト管理を今後も協会メンバーで行っていくためには、協会のホームページはワードプレスで管理できる情報発信に限定し、オリジナルソフトで担っているPayPal、メンバー管理を切り離すことを検討したい。

審議3 【日本フォーカシング協会持続可能な運営への移行について】

福田事務局長より、当協会が持続可能な運営を行なっていく術として、以下の点が提案された。

1. 現状の Web 上の管理ソフトでは今後のメンバー管理に齟齬をきたす可能性が非常に大きい為、保守管理出来ない部分（オリジナルソフト部分）のシステムを切り離す必要がある。その場合そのソフトが担っている管理部分を、早急に外部委託する必要があると考える。急を要する問題であり今期中に解決したい。については運営委員会に委託先の選定を一任して頂きたいと考える。予算的には現状の委託料と委託内容を基に増減を算出したい。

2. 法人化について、今の当協会の自由な雰囲気を極力残しながら、一方、税制的にもきちんと対応していくことで、金融機関への信用力を増し、継続的かつ安定した運営が出来るかと考える。法人化にもいくつかの形があるため、詳細を調査し、メンバーに提示して、皆が納得する方向性を見つけていく。今期はメンバーに提示できるプランの作成を行いたい。

3. この Web の見直しと再構築、今年度中にはそれら管理業務の外注先まで決定し、2024年度からは法人化も含めた新システムを開始する必要があると事務局では考えている。また事務委託選定や Web システムにかかる調査費、法人化のための調査費として、今年度、余裕をもって 30 万円の予算を計上したい。

続いて、森川会長より、今後の大きな方針として、事務の外部委託について検討していくこと、法人化について調査していくこと、これらのことについてフロアーに質問、意見等を求めた。

メンバーより、法人化は、社団法人や NPO だと想像されるが、これからそのメリットやデメリット等を専門家とも相談し、検討していく予定であり、そのための費用もかかるので、その予算承認を得たいという趣旨であっているだろうかという質問がなされた。

>森川会長より、その趣旨であっていることが返答された。

続いてメンバーより、Web サイトの構築、現状の運営の主体は、運営委員会内部で何と呼ばれているのかという質問がなされた。

>森川会長、青木副会長より、運営委員の 4 役に属していること、Web サイト（担当：Web サイト管理係）や会員管理（担当：事務局）もメンバーがボランティアで行なっていることが伝えられた。

>これを受け、メンバーより、ボランティアだと不透明なので、なんらかの報酬が発生する形で、透明化したほうがいいのかという提案がなされた。

福田事務局長より、審議1、2、3について、今後の当協会の継続運営のため、この方針でいいかメンバーに尋ね、承認を得られた。また、Zoom参加のメンバーからも賛成の意思が示された。

森川会長より、賛成多数で承認が得られたことが確認された。また、具体的な委託先など心当たりがある方、ご意見、ご関心をお持ちの方は、ぜひワーキンググループという形で参加してもらいたく、運営委員に声をかけてもらいたいとお願いされた。

A-3. 2021年度活動報告及び2022年度活動計画

A-3-1. 国際交流グループ関連の議事

2021年度の国際交流グループ関連の活動について、国際交流グループリーダー 久羽 康氏より、以下の通り報告がなされた。(今年度グループリーダー：久羽 康氏、仁田 公子氏)

1は例年通り、2は最近始まったもの、3は長年懸案事項であった FOLIO の翻訳記事が TIFI web サイトに移行されたことについて報告がなされた。

2021年度 活動報告

1. The Focuser's Focusへの記事投稿／国際ワークショップ等の情報提供

1) 主に協会メンバーの国際交流を紹介することを目的に、協会ニュースレター「The Focuser's Focus」の国際交流コーナーに記事を投稿した。

・デヴィッド・ブレイジャー氏 グローバル・サンガの集いでの参加・発表報告(仁田公子さん、土江正司さん)

・ジェンドリンの哲学業績に関するシンポジウムへの参加・発表報告(田中秀男さん、久羽康さん)

・V. サティアのモデルとの結びつきの中でフォーカシングを探究しているギリシャのアニエス・ウィンドラムさんが記事を投稿

・グループ・ミーティングの報告記事(上海の李明さんの中国での活動に関するシェア)

2) 国際ワークショップ(オンライン実施のものも最近増えている)についての情報提供も行なっている。

2. 国際交流グループ オンラインミーティングの運営／メーリングリストの管理

(最近始まったもの)

・オンラインでのグループ・ミーティングを継続的に実施し、情報交換や交流が行われている。ミーティングは、原則偶数月の第1金曜日に実施。協会メンバーであれば誰でも参加可能なため、ニュースレターの国際交流グループコーナーなどでお知らせしている

(2021年度 4回実施)。時々海外の方をお招きしているが、急な予定はwebサイトの国

際交流コーナーに案内を掲載しているので、関心をお持ちの方は確認して、ぜひ参加してもらいたい。10月、12月に海外からのゲストが参加予定。

・Eメール上で意見交換等ができるよう、メーリングリストを活用し、新規のグループ参加者の登録等の管理をおこなった。

3. TIFI webサイト管理者との連絡、FOLIO翻訳記事のTIFI webサイトへの移動

・今までの経過：TIFIのFOLIOの翻訳記事を日本フォーカシング協会のwebサイトに掲載していたが、著作権の問題があり、TIFI と連絡を取りTIFI webサイトに移す話になっていたが、なかなかTIFI担当者との連絡が取れないでいた。

・TIFI webサイト管理者とようやく連絡が取れ、日本フォーカシング協会のホームページに掲載されていたFOLIOの翻訳記事はすべてTIFI webサイトの日本語ページに移すことができた。

・TIFI新サイト日本語ページにおけるリンク切れの解消や新しい翻訳記事の掲載などをTIFI webサイト管理者と共同でおこない、ひと段落つくことができた。

・TIFIの日本語ページには、協会webサイト国際交流コーナーのリンクから行くことができる。

課題

・グループ・ミーティングでは国際交流の促進を目的とした補助等（通訳をしてくれた人に謝礼など）に関して議論がなされたが、現在のところ、十分に目的に沿うような案が得られていない。

・グループ・ミーティングに海外からのゲストをお招きする企画は大変有意義に感じているが、通訳をどうするかということは常に課題となっている。現在のところは、メンバーがボランティアでメインの通訳を引き受け、その他可能な人がその場でサポートするという形にしている。すべての参加者が気楽に、互いに助けながら参加できるような場を、今後も維持していきたい。

森川会長より、国際交流グループの活動について、フロアーに質問等を求めたが、特になされなかった。

A-3-2. 教育研修グループ関連の議事

2021年度の教育研修グループ関連の活動について、教育研修グループリーダー 河崎俊博氏より、以下の説明がなされた。（今年度グループリーダー：越川 陽介氏（助成関連）、河崎 俊博氏（ワークショップ情報提供サービス関連））

2021年度 活動報告

1、助成事業関連

・フォーカシング普及・活動助成事業規程に基づき、2021年度開催の研修会のための活動助成の追加募集を行ったところ、0件の応募であった。

2、ワークショップ情報提供サービス関連

・ワークショップ情報の申込フォームの修正（現在 web 作業中）。現在は備考欄に書かれている申込方法の欄を追加し、内容を独立できるように修正を行っている。

・ワークショップ情報掲載依頼の審査および web ページへのアップ作業、ニュースレターのワークショップ情報の原稿作成を行った。今年度は、1月～9月半ばまでで36件、4月～9月半ばまでで30件ぐらいの掲載依頼があり、昨年度よりも随分と増えている。

2022年度 活動計画

1、助成事業関連

・フォーカシング普及・活動助成事業の規程に基づき、次年度開催の研修会のための活動助成事業を行う。

・フォーカシング普及・活動助成事業の規程に基づき、今年度開催の研修会のための活動助成の追加募集を行い、活動助成事業を行う。

・フォーカシング個人セッション、フォーカシング仲間募集のニュースレター原稿作成に関わる活動を行う。

2、ワークショップ情報提供サービス関連

・ワークショップ情報掲載依頼の審査および web ページへのアップ作業、ニュースレターのワークショップ情報の原稿作成を行う。

課題・審議

続いて、河崎氏より、以下の審議内容について説明がなされた。

1、集いのマニュアルについて

年次大会を行いやすいように、集いのマニュアルを作成した。集いの開催を検討下さっている方やご希望の方には、このマニュアルをデータで配布しようと考えているので、ぜひお声がけいただきたい。

2、アンケート調査について

教育研修グループの活動をより活発にし、メンバーに還元できるようにアンケート調査を実施したい。今回配布されたチラシの QR コードからや、ホームページからもアクセス

できる。また今後、ニュースレターにも掲載予定である。回答の締切は年末。アンケートの結果報告は、ニュースレターで行う予定である。

森川会長より、議題1、2について、フロアーに質疑等求めたが、特に質問等はなく、承認された。

この承認を受け、河崎グループリーダーより、ぜひアンケート調査にご協力いただきたい旨お願いされた。

3. ペアフォーカシング・プラットホーム企画について（2022年10月から開始予定）

無料で月1回（金曜19：10～21：10）、メンバー限定、Zoom上でペアフォーカシングが練習できる場の提供を検討している。フォーカサーとして自分でフォーカシングを進めることができ、かつフォーカシングのリスニングを学んだことがある方を対象とし、スタッフはペアのマッチングを行うだけで、基本的には参加者にまかせる形をとる。運営は森川会長と教育研修グループのメンバー1名を予定。この企画を教育研修グループの事業として認めてもらいたい。

森川会長より、上記議題に併せて、当協会としてZoomのアカウント契約を持っていてはどうかという話が事務局、国際交流グループでも上がっていることが報告された。そのため、協会として一契約できればと考えているが、Zoom契約の可否についても審議をいただきたい旨が伝えられた。その後、フロアーに質疑等求めたが、質問、意見等は特になく、教育研修グループの審議1～3、Zoomの契約について承認が得られた。

A-3-3. ニュースレター編集グループ関連の議事

2021年度のニュースレターグループ関連の活動と課題について、ニュースレターグループリーダー 宮田 周平氏より、以下の説明がなされた。（今年度グループリーダー：宮田 周平氏、泉谷 昌平氏）

2021年度 活動報告

1. 年間四回、ニュースレターの発行

- ・ニュースレター発行作業は概ねスムーズであり、コロニー印刷との連携も問題なく行えている。しかし、郵便局の土日配達業務廃止のため、発行日と到着日の差が大きくなる問題が出てきている。
- ・発行ページ数は常に4の倍数になるよう工夫し、21年度は、24・36・24・28（平均28ページ）、22年度は20ページであった。
- ・グループメンバーが、ある2月のワークショップで主催者の了解を得てニュースレター

のPR（協会・ニュースレターの説明、投稿のお誘い）を行なった。

- ・22年度は、初割付け1名、初副編集長2名いる状態。
- ・23年4月からの新グループリーダー（運営担当）が内定した。

課題

- ・前々年始めた「オトハナ企画」（お届けの仕方を考えよう）の今後の展開について、電子化の検討など含め、具体的な検討に入りたい。
- ・グループ内のコミュニケーション機会を増やしたい。昨年総会后に1度行なったオンラインミーティングは好評であったため、また行いたい。
- ・編集作業の体制を見直したい。副編集長への負担が大きいため、副編集長の廃止や割付作業のサポート体制を考えるなど、初めての方でも編集に携われるように考えていきたい。

森川会長から、フロアーに質問等求めたが、特に質問等は出なかった。

（全体に対して）

メンバーより、どこのグループにも属さないところで、協会に Youtube のチャンネルをもったらどうだろうかという意見が出された。

>森川会長より、その内容は教育研修グループが担当だと思いと回答があり、教育研修グループの河崎氏より、検討する旨が回答された。

A-4. 次期運営委員・監事承認

A-4-1. 新監事の承認

三木 健郎監事より、今年度で退任となるため、新監事として長瀬 真由美氏が推挙されたことが報告され、承認された（任期：2023年4月1日～2025年3月31日）。長瀬氏から全体に挨拶をいただいた。

A-4-2. 新グループリーダーの選任

国際交流グループリーダー仁田 公子氏より久羽 康氏が任期満了退任となり、新たに岡村 心平氏が選出されたこと、教育研修グループリーダー河崎 俊博氏より、越川 陽介氏が再任されたこと、ニュースレター編集グループリーダー宮田 周平氏より、泉谷 昌平氏が任期満了退任となり、新たに佐本 珠美氏が選出されたことが報告された。また、新任の方々から全体に挨拶をいただいた。

役名	氏名	就任時期	満了時期	任期	改選
会長	森川 友子	2022.4	2025.3	3年	
副会長	青木 剛	2022.4	2025.3	3年	
事務局長	福田 尚法	2022.4	2025.3	3年	
事務局次長	川崎 佐加恵	2022.4	2025.3	3年	
事務局次長	吉井 真也	2022.4	2025.3	3年	
ウェブサイト管理者	山崎 暁	2022.4	2025.3	3年	
ウェブサイト管理者	松尾 秀寿	2022.4	2025.3	3年	
監事	得丸 智子	2022.4	2024.3	2年	
監事	長瀬 真由美	2023.4	2025.4	2年	
国際交流グループリーダー	仁田 公子	2022.4	2024.3	2年	
国際交流グループリーダー	岡村 心平	2023.4	2025.3	2年	
教育研修グループリーダー	河崎 俊博	2022.4	2024.3	2年	
教育研修グループリーダー	越川 陽介	2021.4	2023.3	2年	再
ニュースレター編集グループリーダー	宮田 周平	2022.4	2024.3	2年	
ニュースレター編集グループリーダー	佐本 珠美	2023.4	2025.3	2年	

A-5. 2022年度予算

吉井事務局次長より、2022年度予算について資料をもとに説明がなされた。

- ・今年度から運営委員会と拡大運営委員会でも交通費が支給されることになったため、事務局運営費が前年度よりも10万円多く計上されていること。
- ・今年度はA-2で審議された持続可能な協会運営のための移行準備費（事務局やメンバー管理の外部委託や法人化の調査費等）として30万円が新たに計上されていること。
- ・今年度はA-3教育研修グループ審議でもあがっていたZoomの契約費（当協会として1アカウントを契約）が新たに計上されていること。

次に、今年度の大会補佐である河崎 俊博氏より、今年度沖縄県での集いで参加者数が例年よりも大幅に少なかったため（通常80～120名の参加だが、今回はスタッフ含め62名）、大会の運営が準備金と参加費では賄えない現状にあり、不足分を協会から補填をしてもらいたいことが説明された。

吉井事務局次長より、これを受け、来年度以降も同様の懸念があるため、大会準備費を前年度より10万円多く計上されていることが説明された。

森川会長より、フロアーに質疑を求めたが、特に質問等はなく、承認された。

2021年度決算			2022年度予算		
収入の部	金額	備考	収入の部	金額	備考
前期末より繰越	6,724,543		前期末より繰越	7,181,174	
年会費	1,564,500	3,000円×517人 5250円×1人 3,750円×1人 2,250円×1人 1,500円×1人 750円×1人	年会費	1,563,000	3,000円×521人
寄付	320,000		寄付	0	
前受	9,000	2022年度会費4名	前受	3,000	3,000円×1人分
受取利息	56		受取利息	50	
ニュースレター バックナンバー頒布	0		ニュースレター バックナンバー頒布	1,500	
その他	14,960		その他	0	
小計	1,908,516		小計	1,567,550	
収入計（前期末より 繰越を含む）	8,633,059		収入計（前期末より 繰越を含む）	8,748,724	
支出の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
ニュースレター発行	679,663	福岡コローへ支払い	NL印刷・発送費	760,000	福岡コローへ支払い
事務局運営	127,396		事務局運営費	650,000	運営委員会メンバーの 交通費を含む
事務委託	251,240	福岡コローへ支払、半 期125,620円固定	事務委託費	251,240	福岡コローへ支払、 半期125,620円固定
Webサイト運営	10,270		持続可能な協会運営 のための移行準備費	300,000	事務局/webサイト外 部委託及び、法人化の 調査費等
普及・活動助成	0		Webサイト運営費	15,000	
次年度大会準備	0		普及・活動助成費	200,000	
手数料	74,566		次年度大会準備費	400,000	
年会費返金	8,750	3000円×2件	沖縄集い補填金	100,000	
総会会場費	19,140		総会会場費	10,000	
			zoom契約費	30,000	
			手数料	70,000	
			年会費返金分	0	
小計	1,471,025		小計	2,786,240	
翌年度への繰り越し	7,181,174		予備費	5,962,484	
支出計（翌年度への 繰り越しを含む）	8,652,199		支出計（予備費を含 む）	8,748,724	
期首残高	6,724,543		期首残高	7,181,174	
期末残高	7,181,174		期末残高見込み	5,962,484	
増減	456,631		増減見込み	-1,218,690	

< B. 報告事項 >

B-1. 2022 年度年次大会について（会長）

森川会長より、次年度の集いについて、以下のように計画されていることが情報提供なされた。

日時：2023 年 8 月 19 日・20 日（予定）

会場：福岡県（予定）

続いて、再来年度以降の大会の開催地については、まだ決定されていないことが情報共有なされた。今回集い開催のマニュアルも作成されたこともあり、開催の意向のある方々はぜひお声がけいただきたいことが伝えられた。

B-2. その他

森川会長より、他に審議事項があればとの呼びかけが行われたが、特に審議事項の申し出はなかった。

以上をもって、会長は総会を閉会した。